

平成23年度 第3回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成23年3月27日（水）午後3時～午後4時30分

◇場所：本庁議会棟3階 委員会室

◇出席委員：13名（欠席2名）

◇会議次第

1 開 会

2 報 告

市民協働のまちづくりフォーラム及び連続講座の開催について・・・別紙1

3 議 題

三原市市民協働のまちづくり推進計画の改定（案）について・・・別紙2 別紙3

4 閉 会

◇主な意見（○：委員の発言，●：会長・部会長の発言，★：事務局の発言）

2 報 告

市民協働のまちづくりフォーラム及び連続講座の開催について

- ：今までのフォーラムの中では参加者が一番多かったということで、東日本大震災の影響が大きかったのかと思うが、意見の中には「再度研修して欲しい」などがあり、今後も継続していくべきと思う。一般の人はなかなか意識が上がらないので、それよりもリーダーのような人を育てていくのが必要だと思う。
- ：フォーラムと連続講座を同じテーマで続けてやったので、一般の方に見てもらえるような概要版を作ってはどうか。防災の取り組みをする時に、配布する資料のようなもので、ここでやったものが消えてしまったら意味が無いので、いかに積み上げていくかを考えなければいけない。文章化するなりなんなりしてポイントだけを拾って、協働でこういうことをやったよという広報資料にすればいいのでは。今回は来られなかった方にも見てもらえるように、例えば、つなごうねつとに載せるとか、考えていかないとやった意味がない。もったいないような気がする。
- ：三原市でも危ないという、根拠を元に説明されたのを聞いて、液状化が十分あり得るということについて初めて知ったし、フォーラムに来られた方は十分に関心を持ってくれたのではないか。
- ：今後引き継ぐというのを検討したい。
- ：今、小学校の統廃合についてみんなに呼びかけてやっている中で、全て市民の人へ報告という形で出している。フォーラムにおいても結果としてどんなことをした、というものを、呼びかけたところへは出していくべきではないか。報告の概要がここにあるが、これを送るべきではないか。
- ：行きたくても行けなかった方はたくさんいらっしゃると思う。
- ★：もっともだと思う。内容は大変有意義で濃いものであった。市議会でも委員会の協議の内容や結果をホームページに上げて協働の推進をPRせよという意見もあった。講座の内容を市のホームページにアップするなり、呼びかけた団体に送るなり、事務局のほうで対応します。

- ：せっかく協働ということでやっているのだから、協働の視点の中で、“こういうことをしませんか”というのでもあればいい。防災組織が地域にないところは、できるようになってほしいとか、協働の視点で、“こうなってほしい”というものを書いてはどうか。
- ：協働の視点は外さないでほしいということですね。
- ：フォーラムから連続講座への流れをやってきて、その流れを大事にしていかなければという話ではあるが、今回、環境政策課の筆影山ウォーキングと、防災体験会という同じ協働の取り組みが重なって行われていた。協働の取り組みというのを私たちはフォーラムと連続講座の関係だけでやっているが、複数同時並行で行われている。そのあたりをどうPRするかが問題だと思う。自分の参加したい協働の取り組みにはこういうものがありますよ、とPRするような仕掛けをどう作っていくか。筆影山ウォーキングについては市広報には載っていたがとても小さくて、つなごうねつには載っていなかった。それは、担当課のほうでつなごうねつなどに上げて広報してもらおうか、何か考えないと、協働が広がっていかないと思う。
- ★：市長からも市民へのPRが下手だという話があるが、委員からあつたご意見を受けて、広報PR活動を広げ、益々協働を推進できるように努力します。

### 3 議 題

三原市市民協働のまちづくり推進計画の改定（案）について

- ：指標の考え方を見ていると、「量」というか「数値」になっている。例えば「4(4)活動支援機能の充実」というのは団体数だけではなくて、“こういう機能が強化になった”というのが、成果というか、評価になるのではないかと思った。それは、他のところでも、計画段階から見れば団体数は増えているが、それでどういう成果があつたのか、それをどう見るのか。例えば、アフリカの子どもたちを支援して識字率を30%高める目的で施策を作った時には、例えば学校を建てて教育して、それで識字率が50%になったから前より30%増えましたというような評価になるが、本当に読めるようになったかどうかの問題であつて、学校をどれだけ建てたかという数が問題ではない。やろうとする目的、目標を評価するような指標がいるのではないかと思う。市民のみなさんにも、こういうふうにできました、と言つたほうが、説明がつくのではないか。
- ：要するに中身の評価ということですね。
- ：とりあえず数値的な指標を導入してみないと、次回の本改定の時に載せるのが難しいだろうということで、次回に向けた試験的な意味がある。例えば支援金の充実とあるが、支援を受けている団体の満足度、それをどういうふうに評価するのか、いろんなところから情報を取って、これから3年間で検討するのが重要になってくる。どういうふうに指標を作っていくか検討しないといけない。今回、ご意見をいただいたので、ここで初めてそれを考える土台ができた。今回の指標の目的はまさにそれで、議論を進めていく中でどういうのが協働の指標として適切なのか、石を投げてみたということ。まだ今後、議論はあると思う。
- ★：委員の仰るとおりで、当初数値があつての評価となる。その当初数値の出し方が難しい。まず制度があつて、進捗が何%かという成果をはかる指標だけを今回は出すという話もしたが、市民のみなさんが見たときに、分かりにくい部分もある。そもそも元の数値がないものを選んで、その数値を上げるとなると、その元があつたのかということになる。よつて、実績のような形で今回は上げて、次回、そういうものを考えながら計画を進めていく。
- ：指標については、年度、年度の中で、様々な取り組みの中で出されたということで理解するが、

高齢化が加速するという三原市が置かれている状況、我々のまちづくりがどうあるべきかという見直し、本当に6年を見越した中で為されたのか、この改定のどこで読みきった方がいいのか。住民組織はこれからどういった取り組みをしていくべきか、日常の中で市民は何を楽しみに生き生きと暮らしていけばいいのか、具体的に全く見えてこないというのが報告の中身。一番気になる問題は、本当に見直しをしたのかどうか。私には全く見えない。

- ★：今回は中間見直しということで、具体的な施策の内容等については、例えば市民協働のホームページについては「開設・運営の具体的施策」だったのが、もう開設はしたので「充実」などに変更されている。全面改訂ならば新たに作って見直していくが、今回は6年の計画の中での時点修正。現在と何が変わったのかと言われれば、具体的施策の中身は変わっていない。26年度に見直すときにはまったくリニューアルした計画として出すのが当然かと思うが、今年度の見直しは修正という形でご理解いただければと思う。
- ：少し見直しという意味合いの中では、施策をどう取り組んでいくかという軌道修正のようなものはあってもいいのではないかと。地域集会所の予算を三原市はもう見ないと新聞に載っていたが、一番大事な住民組織への援助がなくなるということではないか。本当に地域の一住民から見た取り組みの中で、このまちづくりというのも、3年間の中でいろいろな取組みがされているが、方向性を明確にしてほしい。
- ★：27ページにある集会施設の整備ということで、今回、全協で説明した集会施設の管理運営方法の適正化について20日の新聞に出たと思うが、市の所管する施設が122あり、これは合併以前の旧三原市と3町が持っていたもので、維持管理方法が全て違う。同じ老人集会所でも維持管理経費を市が見ているところと、地元が全額見ているものとある。同じ市の所管にもかかわらず、負担方法が違う。また、もともと住民組織が自前で建てたものは279施設あって、それは全て住民組織が維持管理をしている。同じ使われ方をしていながら、市が所管しているものと、住民組織が自前で維持管理をしているものとが存在するので、市が所管しているものは移管し、統一しようという考え方。委員が仰ったのは、切り捨てるのかという思いからだと思うが、管理統一していく中で進めていっている事業なので、協働というのとは、また少し意味合いが違う。そういったことも別に検討されています、と載せているだけということ。
- ：一番重要なことは、合併後の姿が統一されて、おじいちゃんおばあちゃんがすぐ近くにあるところで活動ができる、若い人も一緒に活動できるというのが市民協働ということではないのかと思う。公民館の機能の充実も含め、避けては通れない。今後、重要視されることだと思う。
- ★：三原市の合併後の将来のあるべき姿については、三原市の長期総合計画という市の最高上位の計画があり、これの下に市民協働のまちづくりがあると思う。協働が必要だというのはみなさんにご理解いただいていると思うが、計画のほうにも書いてあるとおおり、この市民協働に繋げるための環境整備と仕組み作りのため様々な施策を検討してきた。計画策定から3年経ったということで、今後そのようなことを踏まえて実践へと繋がる動きをしていかなければならない。その実践への取組みの中で、住民組織がどうあるべきなのか、地域はどうなのか、各種団体がどうあるべきなのかということは、当然その中で議論され、方向が見えてくると思う。今回は計画をもとにA・B・Cランクをつけたが、Cがたくさんあり、そのあたりはレベルアップしていかなければならないし、Aはもっと上を目指し、残りの3年間やっていきたい。この中で先ほど話にもあった、新たな計画策定へ繋がってくると思うので、そういった方向性で動いていきたいと思う。よろしくお願ひします。
- ：先ほどの指標のところへ返るが、私自身、市民団体のひとつで、市民協働のホームページへ登

録しているし、利用者としてはアクセス数が減っていることや、更新の回数が減っていることは気になっているが、私自身も更新できていない。私自身、協働のホームページとは別に、ブログやツイッターやフェイスブックをやっている、そういったほかのところにはある環境がないというか、このホームページは流したら流しっぱなしになってしまう。今後どう伸ばしていくか、利用者も一緒に考えなければいけない。ウィメンズネットワークさんが、ホームページに登録して連絡先を公開しているところを拾って直接メールをくれたり、そういうところもおられるので、なんとかその動きを活発化させるのを、一緒に考えていけたらと思う。

- ：事務局と私で話をしたが、ホームページのアクセス数を過大に伸ばすというのは今の現状、情報化が進んでいて、厳しい数字ではないのか、という感想を持った。今はブログ・ツイッター・フェイスブックなどのネットワークのほうが進展しているので、そういう意味で、ホームページというのをもう一度考えていく時期がきている。市としては一応こうした数字をカウントしていく必要があるのでここに挙げているが、情報化の進展は考えている以上に急速に、劇的に変化しており、どう情報を発信していくか、今後考えていくべきであろうと思う。
  
- ：推進計画はこれでいいが、一方で、先ほどご指摘があったような、市民協働のまちづくりをどう評価する、どう成果を見るというような、そういった報告書のようなものは作るという話があったのだったか。6年間この計画に従って、どういうふうにならなかっただけでなく、その中身が進んできたのかというのを冊子にして市民に公表するような。6年間のこの計画の中で、後半3年間をやっていくなら、最終的にはPDCAで次にどうするかという見直しをしないといけない。この計画書以外に、例えばその年度毎の報告というのが別の形で冊子になったり、市民に公表されたりするのか。
- ★：最近、ホームページがアップされていないと議会でも指摘があったが、毎年、今年市民協働の成果はこうだったというのを出していたが、今回は年度途中で1回出したこともありまだ公表していない。
- ：それは中身をどう取り組んだかちゃんと表せるものになっていますよね。
- ★：内容によって違うと思う。
- ：そういったものをもし出すなら、6年間の最後の改定の時だと思います。そうなる前に調査をしないといけない。ここまでどういう取り組みをした、という結果を投げかけて、アンケートをするという手法はあると思う。
- ：その基礎資料になるようなものを作るのかということ。
- ：アンケートを取るときには、簡略的なものをまとめて、こういう取り組みをしたが今何に困っていますかという投げかけになる。当事者の人とアンケートの項目作りをしていき、これをするとしたら相当早い段階からやらないとたぶんどけない。むしろ一番大事なのは項目作りで、一緒に作る時に「協働ってこんなに進んでいたんだ」と勉強したり「いろいろ言ってきたけどできていないか」とか、気付く。そういう時間をかけるなら、1年半前にはスタートしないといけない。アンケートは当該年度の5、6月で集計を9月までに行うような手法を取る。中間の改定はこれで終わったが、すでに改定への動きが始まっていると考えて、今から準備は必要であると私は認識している。
- ：行政の場合には行政評価というか、それぞれ施策については評価を出しているのでは。9月の議会までに間に合わせて、今やっている施策や事業で効果があったかどうか議論するような、予算をつけるためにそういうものがあるのでは。ただ、それは市民が見ても分からない表現で

行政用語が多用されているので、我々はせっかく市民協働という指針のもとでやっているのだから、それをいかに市民に分かるように噛み砕いてやるか、考えてもらえれば、これをやった効果があるのでは。

- : 市の推進計画ではあるが、我々推進委員として考えていくべきなのは、じゃあこれを実際に実行していく主体は誰なのか、三原市だけでいいのかということ。協働ということになるなら、それぞれの活動団体や住民組織を含め、それぞれが主体となってどう活動していくのかという視点を含めていかないといけない。これを三原市だけに目をかけるのではなくて、全てのチームが追っていくんだというような視点を盛り込まないと、協働にはつながらない。それぞれの意見を取り入れ、それぞれの立場で自分たちができることをどう認識して、そういうことを具体的に公表していくのか。それをそれぞれがもう一度問い直す。そしてそれぞれが主体的に活動し、手を取り合ってできることはやっていく。そういうような視点で推進計画を考えていく必要もあるかと思う。そういうことをふまえながら、市は市として責任を果たしてほしい。